

POINT_

ファイル名には半角スペースも使用しないよう、注意しましょう。

(不等号)などの記号をファイル名に使えますが、Windowsでは使用できません **図1**。このような記号は、ファイルを扱う環境によって別な文字に置き換わったりするトラブルを招きますので、使わない方が無難です **!**。ファイル名に使用する記号は「.」(ピリオド)、「_」(アンダースコア)、「-」(ハイフン)程度にとどめておきましょう。

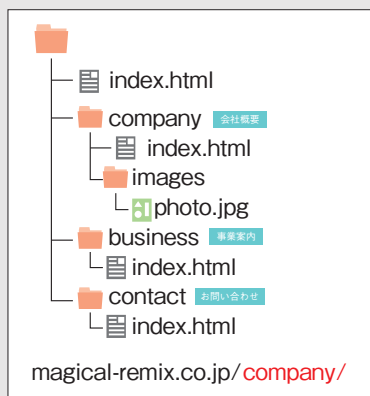
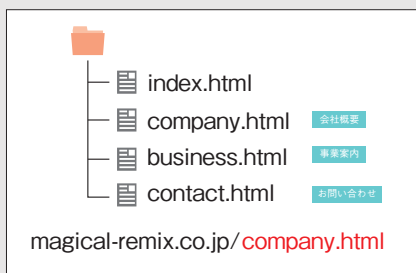
▶ ファイル名とフォルダ名の関係_

前項で説明した「ディレクトリインデックス」は、WebページのURLを決定する上でとても重要な考え方です。たとえば、Webサイトのコンテンツが「会社概要」、「事業内容」、「お問い合わせ」の3つだとします。1つのコンテンツ(ページ)に対して1つのHTMLファイルを作成していきますが、このときファイルにコンテンツ名をつける方法(会社概要であれば「company.html」と、フォルダにコンテンツ名をつける方法(会社概要であれば「company」フォルダ)があります。

フォルダにコンテンツ名をつける場合、その中に格納するHTMLファイルは、一般的には「index.html」とします。フォルダにコンテンツ名をつける方が、URLとしてもスマートで、関連するページや画像もいっしょに格納できるため、一般的には **フォルダにコンテンツ名をつける手法 **!****を採用します **図2**。

POINT_

類似するコンテンツがある際に、「content001」、「content002」といった連続するナンバリングでフォルダ名をつけることがあります。この方法だと、途中のコンテンツがなくなったり、ネーミングのルールに無理が生じたときに、ファイルやフォルダを管理しにくくなってしまいます。数字を連番でつけていくネーミングでは、こういった管理上の問題も考慮しましょう。

図2 ファイルの整理方法の違い

HTMLファイルにコンテンツ名をつけた例(左)では、1つのフォルダにさまざまなファイル名が混在することになり、ファイルの管理性が低下する。一方、フォルダにコンテンツ名をつけて区分した例(右)では、関連するHTMLページや画像をまとめて格納できるメリットがある上、URLの表示がスッキリする

SUMMARY
まとめ

- [1] ファイル名は半角英数でつけ、特殊な記号は使用しない
- [2] HTMLファイルではなく、フォルダにコンテンツ名をつける
- [3] フォルダで分けると関連ページや画像などを格納できる

見ながら指定します。1つ注意しなければならないのは、pxで指定した固定の文字サイズは、Internet Explorer (IE) 上でサイズを変更する操作が効かない❗️ということです。

相対単位のemと%は、親要素の文字サイズに対する相対的な大きさを指定します。たとえば、body要素の文字サイズが100%だとします。その中に書き入れるp要素に対して「150%」の指定をかけた場合、文字のサイズが1.5倍になります。

emの場合は、「1.5em」のように指定します。emは親要素の文字サイズを基準にして「○文字分」と相対的に表示します。「1.5em」であれば1.5倍と置き換えて考えることができるため、直感的なサイズ変更をしやすい単位といえます 図3。

文字の大きさの初期値は、Webブラウザごとにバラつきがあります。pxですべての環境を同じように見せるために固定するのは簡単な方法ですが、「OSやブラウザは人それぞれ、ユーザーごとに環境が異なるのは当たり前」という考え方もあるため、ユーザーの操作や環境を限定しない相対指定を使う考え方も取り入れたいですね。

POINT

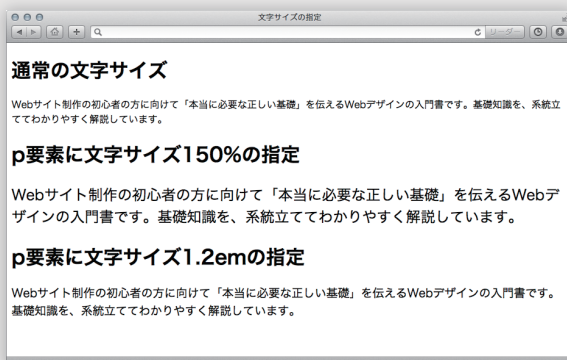
IEは、2013年7月現在の最新バージョン10でも、ブラウザの機能による文字の拡大・縮小が無効です。ユーザーの操作を制限することになりますので、単位にpxを採用する際はこのことも頭に入れておきましょう。しかし、最近のWebブラウザには文字だけを拡大・縮小する機能に加え、ページ全体をズームする機能が備わっています。そのためひと昔前ほど、IEに対してpxでの指定は絶対に避けるといった流れではなくなってきました。

WHY?: OSやブラウザは人それぞれ

Webの本質は、環境やユーザーを問わず、公平に情報を伝達することです。しかし、デザインの趣向や制作者・クライアントの意向によって、実際に採用する単位はさまざまです。このため、どれが一番よい選択肢とは一概に言い切れません。Webサイトの目的や用途をしっかりと見極めた上で判断しましょう。

図3 文字サイズに相対単位を使用する

```
<head>
<style type="text/css">
body { font-size: 100%; }
p.case1 { font-size: 150%; }
p.case2 { font-size: 1.2em; }
</style>
</head>
<body>
<h1>通常の文字サイズ</h1>
<p>Webサイト制作の初心者の方に向けて「本当に必要な正しい基礎」を伝えるWebデザインの入門書です。基礎知識を、系統立ててわかりやすく解説しています。</p>
<h1>p要素に文字サイズ150%の指定</h1>
<p class="case1">Webサイト制作の初心者の方に向けて「本当に必要な正しい基礎」を伝えるWebデザインの入門書です。基礎知識を、系統立ててわかりやすく解説しています。</p>
<h1>p要素に文字サイズ1.2emの指定</h1>
<p class="case2">Webサイト制作の初心者の方に向けて「本当に必要な正しい基礎」を伝えるWebデザインの入門書です。基礎知識を、系統立ててわかりやすく解説しています。</p>
</body>
```



文字の大きさはp要素の親要素であるbody要素の基準に依存する。この例では中段のp要素を「150%」と指定すると、body要素の文字サイズから見て1.5倍の大きさになる

SUMMARY

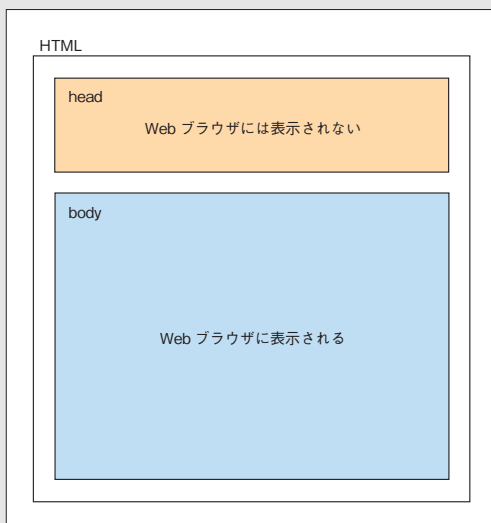
まとめ

- 〔1〕 Webサイトでよく使う単位は相対指定
- 〔2〕 pxは固定的なレイアウトや配置の際に使用する
- 〔3〕 文字サイズの指定にはemを使うと直感的に調整しやすい

ウザ上では大きく太い文字で表示されるので、「重要度の高い情報」であると視覚的にも理解できます。

head要素にせよbody要素にせよ、HTMLの記述は人間にもコンピュータにも理解しやすいよう配慮することが大切です。

図1 HTMLの基本構造



HTMLはhead要素とbody要素からできている。head要素は文書自身の情報を表し、そのほとんどは人間の目に見える形では表示されない

図2 HTMLファイルをWebブラウザで表示した例

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>マジカルリミックスWeb制作事業部</title>
<meta name="author" content="マジカルリミックス">
<meta name="description" content="仙台市を中心とし、宮城県全域に対応のホームページ制作を行っています。">
<meta name="keywords" content="仙台, ホームページ, Web">
</head>
<body>
<h1>株式会社マジカルリミックス Web制作事業部</h1>
<p>マジカルリミックスWeb制作事業部は、仙台のデザイン会社「株式会社マジカルリミックス」の事業部です。～(省略)～各種制作実績が多数あります。</p>
<h2>事業内容</h2>
<h3>WordPress</h3>
<p>WordPressはもともとブログを運営するようなツールです。～(省略)～ニーズに合うツールです。</p>
<div class="jimdo">
<h3>Jimdo</h3>
<p>Jimdoはドイツ生まれの、Web制作の専門知識がなくても更新、運営が可能なASPサービスです。<br />
運営自体はとても簡単ですので、マジカルリミックスでは「準備」と「運用支援」のお手伝いを行います。</p>
</div>
</body>
</html>
```



「<head> ～ </head>」がhead要素、「<body> ～ </body>」がbody要素の記述

SUMMARY

まとめ

- 〔1〕 head要素はコンピュータが読み取る部分
- 〔2〕 body要素はWebブラウザが表示する部分
- 〔3〕 2つの要素の違いは「情報が視覚化されるかどうか」

04 HTMLにCSSを組み込む

HTMLにCSSを組み込むには、大きく分けて3つの方法があります。どの方法で表示しても同じ結果になりますが、使いどころやメンテナンス性が異なります。それぞれの特徴を理解して使い分けましょう。

THEME テーマ

- ▶ CSSを組み込む方法
- ▶ それぞれの方法の違い
- ▶ CSSを組み込む一般的な記述方法

▶ HTMLにCSSを組み込む方法_

HTMLにCSSを組み込むには、主に3つの方法があります。

1つ目の方法「リンク」は、CSSをHTMLとは別の外部ファイルとして作成し、HTMLファイル内からlink要素で参照する方法です。CSSをファイルとして外部に置くことで、複数のHTMLに対して同じCSSを適用することができます❗。この方法ではHTMLのhead要素に、「<link rel="stylesheet" href="style.css" type="text/css">」のように記述します 図1。

2つ目の方法「エンベッド」は、HTMLファイルの中に直接CSSを記述する方法で、head要素内にstyle要素でCSSを指定します✔。「<style> ~ </style>」のように記述し、その中でCSSの指定を行います 図2。

3つ目の「インライン」もHTMLファイルに直接CSSを記述する方法ですが、こちらは要素ごとにstyle属性でCSSを指定します。body要素のすべてのタグに対して使用でき、たとえばある段落の文字色をピンポイントで赤にするには、「<p style="color: #ff0000;"> ~ </p>」と記述します 図3。

▶ CSS適用方法の選択_

CSSの組み込みは、link要素を使って外部から読み込むのが一般的です。ページを追加したり、Webサイト全体に共通のスタイルを変更する際、**外部のCSSだけを編集すれば、そのファイルを参照するページ全部に変更したスタイルを適用できるから**です。

style要素で指定した効果は、そのWebページにだけ適用さ

❗ POINT_

link要素を、連続で記述することで外部のCSSファイルをいくつでも参照させることができます。レイアウトの指定など、Webサイト全体を通して使用するようなCSSは、すべてのHTMLページから参照するようにします。また、HTML5では「type="text/css"」は省略可能です。

Word エンベッド

エンベッドは「埋め込む、はめ込む」という意味。CSSの場合は、HTMLの中にCSSを埋め込むという意味になる。

✔ MEMO_

style要素には、ほとんどの場合type属性で「type="text/css"」を記述しますが、省略も可能です。

WHY?: link要素で記述するメリット

文字色を赤にして強調するようなスタイルは、数カ所であればstyle属性で各ページに記述した方がいいと思うかもしれません。しかし、文字色を緑に変えるような変更が発生した場合、記述した部分の数だけstyle属性を変更していく必要があります。ちょっとしたスタイルでも、何度も使うものは外部ファイルに記述しておいた方が便利です。

図1 基本的なセクタの使用例

【HTML】

```

<div id="introduction">
<p>マジカルリミックスWeb制作事業部は、仙台のデザイン会社「株式会社マジカルリミックス」
の事業部です。ホームページ制作を核としながら、<strong>インターネットを活用したビジ
ネスの提案</strong>や、<strong>ブログのコンサルティング</strong>を得意としています。
小規模な案件からある程度まとまった規模の案件まで、各種制作実績が多数あります。</p>
</div>
<h2>事業内容</h2>
<div class="wordpress">
<h3>WordPress</h3>
<p>WordPressはもともとブログを運営するようなツールです。</p>
</div>
<div class="jimdo">
<h3>Jimdo</h3>
<p>Jimdoはドイツ生まれの、Web制作の専門知識がなくても更新、運営が可能
な<strong>ASPサービス</strong>です。</p>
</div>

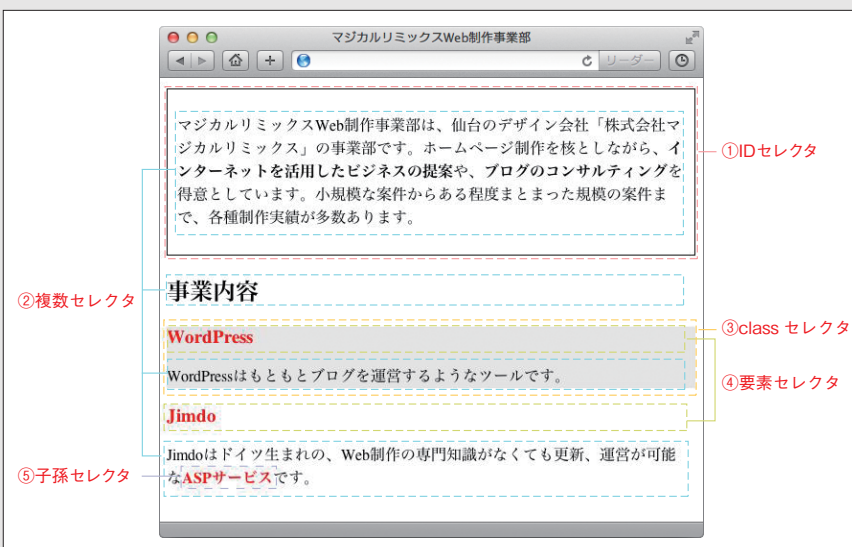
```

【CSS】

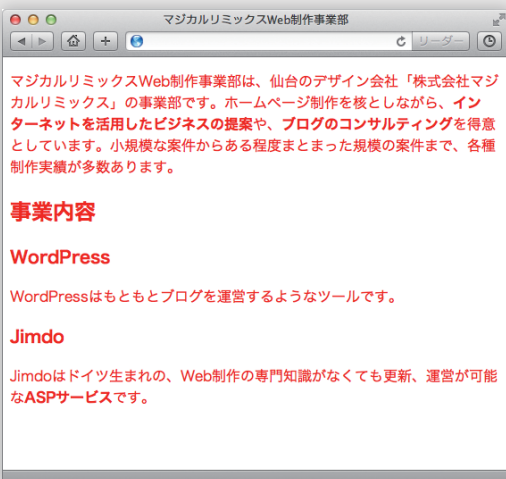
```

#introduction {
border:1px solid #000;
padding:10px;
}
h2, p { color: #000000; }
.wordpress { background: #eaeaea; }
h3 { color: #ff0000; }
.jimdo strong { color: #ff0000; }

```



- ① IDセクタは、div要素のボックスに対して枠線や余白を指定している。
- ② 複数セクタは、ページのすべてのh2要素とp要素に対して、文字色を黒に指定。
- ③ classセクタは「class="wordpress"」に対して背景色をつけている。
- ④ 要素セクタは、ページのすべてのh3要素に対して有効で、文字色を赤く指定した。
- ⑤ 子孫セクタでは「class="jimdo"」の中にあるstrong要素に対して、文字色を赤に指定した。



全称セクタを使用した表示例。CSSで全称セクタ「* { color: #ff0000; }」を記述して、文字色を赤に指定しているため、すべての要素にスタイルが適用されている

図2 属性セクタ、子セクタ、隣接セクタの使用例

【HTML】

```

<h1>アルバム</h1>
<div>
<p></p>
<p>スコティッシュフォールドの<strong>りんちゃん</strong></p>
</div>
<div>
<p></p>
<p>ちょっと眠そうな<strong>りんちゃん</strong></p>
</div>
<div>
<p></p>
<p><span><strong>ハワイ</strong></span>の海</p>
</div>
<div>
<p></p>
<p><span><strong>韓国</strong></span>で食べた料理</p>
</div>

```

【CSS】

```

img {
border: 3px solid #eaeaea;
padding: 5px;
background: #ffffff;
}

img[alt] { border-color: #ff0000; } ②

img[alt="りんちゃん"] { border-color: #e07fad; } ③

span > strong { color: #ff0000; } ④

h1 + div { background: #ffecec; } ⑤

```

まず、要素セクタ (①) でimg 要素に3px のグレーのボーダーと5px のパディング、背景色に白を指定している。そして、属性セクタで、alt属性のあるimg要素には赤いボーダー (②)、alt属性値が「りんちゃん」のimg要素にはピンク色のボーダー (③) を適用。子セクタ (④) で、span要素の直下のstrong要素の文字色を赤に、隣接セクタ (⑤) で、h1要素に隣接するdiv要素の背景色が淡いピンク色になるよう、指定した

SUMMARY
まとめ

- [1] まずは、よく使うセクタの違いと使い方を覚える
- [2] セクタをうまく使い分けることで、短いCSSの記述で効率的にスタイルを指定できる

01 テキストリンクの色を設定する

テキストリンクの色をWebサイトのデザインや配色にあったものに変更してみましょう。リンクの色をWebサイトに合わせることで、バランスのとれたデザインになります。

THEME テーマ

- ▶ テキストリンクの色を変更する方法
- ▶ リンクの状態ごとに装飾を変えるには？
- ▶ リンクの装飾を行うときの注意

▶ colorプロパティでテキストリンクの色を変える

テキストリンクは、CSSを適用していないHTMLをデフォルトで表示した状態では、各Webブラウザごとにあらかじめ決められた文字色で表示されます^①。実際のWebサイト制作では、サイトのデザインやコンテンツに合わせて、テキストリンクの色をCSSで指定して変更するのが一般的です。

テキストリンクの色を変更するには、文字色の変更^②と同様に「colorプロパティ」を使用します。「a { color: #f00; }」と指定すると、リンクの色を赤に変更することができます。指定したリンクの色はWebページのすべてのリンクに適用されます^③。

▶ 疑似クラスの指定とリンク装飾の注意点

a要素に対して疑似クラスを使用することで、未訪問のリンク(:link)、訪問済みのリンク(:visited)、リンクにマウスカーソルが重なったとき(:hover)や選択状態となったとき(:focus)、リンクをクリックしたとき(:active)の、それぞれに対して文字色や装飾を指定できます。

a要素に疑似クラスを指定する際に、「:link」、「:visited」、「:hover」、「:active」、「:focus」の順で指定する必要があるの、注意しましょう。この順番以外での記述は、意図通りに表示されません^{図1}。

テキストリンクの指定では、先ほど説明した文字色の変更だけでなく、a要素に対してさまざまな装飾を指定することができます。「background-colorプロパティ」を使用して背景色をつけたり、「text-decorationプロパティ」を使って下線・上線の

① POINT_

デフォルトの状態では、ブラウザの種類、バージョンの違いによって初期値が異なるため、若干の色の違いがあるものの未訪問のリンクは青色で、下線が引かれた形で表示されます。この形が、ユーザーが見慣れた表現です。ブラウザのデフォルトのままでは、サイトの雰囲気にそぐわなかったり、背景によっては可読性が下がったりするため、通常はサイトのデザインに合わせてテキストリンクの色をCSSで設定するわけです。

② CHECK_

88 ページ、Lesson5-05 参照。

③ POINT_

リンクの色を個別に指定するには、IDセレクトアやclassセレクトアなどを使用し、対象を限定して指定します。

Word 疑似クラス

疑似クラスは特殊なセレクトアで、要素や属性などに対してではなく、「状況」や「状態」に対してスタイルを適用させるもの。74 ページ、Lesson4-06 参照。

WHY?: 疑似クラスの記述順は正確に

CSSにはセレクトアの優先順位はどれも同じで、最後に書かれたものが優先的に適用される性質があります。この性質を踏まえ、リンクをクリックするユーザーのアクションの順序を考えると、:link、:visited、:hover、:active、:focusの順に記述する必要があるのです。

POINT

list-style-typeプロパティの値を指定していない場合、自動的にブラウザのデフォルトスタイルシートが読み込まれるため、ul要素であれば初期値の「disc」、ol要素なら「decimal」が表示されます。

WHY?: ショートハンドプロパティとは?

list-styleプロパティのように、関連するほかのCSSプロパティをまとめて1つのプロパティで指定できるものを「ショートハンドプロパティ」といいます。ショートハンドプロパティを使えば、CSSのコードの量が削減され読みやすくなり、記述する時間を短縮することができます。list-styleプロパティのほかに、border・background・font・margin・paddingプロパティなどがショートハンドプロパティにあたります。また「border: 1px solid #333;」と、ショートハンドプロパティで一括指定し、直後に「border-bottom-style: dashed;」と記述して、個別に変化する部分を上書きする使い方も便利です。

注意が必要です 図2。

list-style-imageプロパティに「none」を指定した場合や、画像の指定ミスなどで画像が読み込めなかったときは、list-style-typeプロパティが自動的に読み込まれます 図3。

リスト項目の文章が複数行になったときなど、リストマークは各項目の外側に表示されています 図4。これは、デフォルトスタイルシートで「list-style-positionプロパティ」の初期の値が「outside」で読み込まれているからです。list-style-positionプロパティの値を「inside」すれば、リストマークを各項目の内側に表示することができます 図5。

▶ リストマークのスタイルを一括指定する

ここまで、リストマークのデザインの指定をlist-style-type、list-style-image、list-style-positionの各プロパティで、個別に行いました。「list-styleプロパティ」で、リストマークのスタイル、画像、表示する位置の順で、間に半角スペースを入れて記述すると、一括で指定することができます 図6。なお、list-style-typeプロパティ、list-style-imageプロパティの値を同時に指定すると、list-style-imageプロパティの値が優先されてブラウザに表示されます。

図4 デフォルトではリストマーカーは各項目の外側に表示される

- ♥ りんごは、収穫量割合を都道府県別にみた場合、青森県、長野県、岩手県の順となります。
- ♥ ラ・フランスの収穫量割合は山形県、長野県、青森県の順となります。

【HTML】

```
<ul>
<li>りんごは、収穫量割合を都道府県別にみた場合、青森県、長野県、
岩手県の順となります。</li>
<li>ラ・フランスの収穫量割合は山形県、長野県、青森県の順とな
ります。</li>
</ul>
```

図5 list-style-positionプロパティの値を「inside」に指定

- ♥ りんごは、収穫量割合を都道府県別にみた場合、青森県、長野県、岩手県の順となります。
- ♥ ラ・フランスの収穫量割合は山形県、長野県、青森県の順となります。

【CSS】

```
ul {list-style-image: url(../images/gazi/mark.png);
list-style-position: inside; }
```

リストマークが内側に表示される

図6 list-styleプロパティでのリストマークの指定

```
list-style: disc url(mark.png) inside;
```

リストマークのスタイル、画像、表示位置を半角スペースで区切り、一括で指定できる

SUMMARY
まとめ

- (1) list-style-imageプロパティでリストに画像を指定
- (2) list-style-positionプロパティは表示位置を指定する
- (3) list-styleプロパティで画像や位置を一括指定できる

図1 colspan属性を使って水平方向に結合する記述例

<code><table border="1"></code>	<code><tr></code>
<code><caption>結合前の表組み</caption></code>	<code><td>内容</td></code>
<code><tr></code>	<code><td>&nbsp;</td></code> 結合によって削除する部分
<code><th>見出し</th></code>	<code><td>&nbsp;</td></code> 結合によって削除する部分
<code><th>&nbsp;</th></code> 結合によって削除する部分	<code></tr></code>
<code><tr></code>	<code><tr></code>
<code><th>見出し1</th></code>	<code><td>内容1</td></code>
<code><th>見出し2</th></code>	<code><td>内容2</td></code>
<code><th>見出し3</th></code>	<code><td>内容3</td></code>
<code></tr></code>	<code></tr></code>
	<code></table></code>

結合前の表組み

見出し		
見出し1	見出し2	見出し3
内容		
内容1	内容2	内容3

結合前の表組み

<code><table border="1"></code>	<code><tr></code>
<code><caption>水平方向にセルを結合</caption></code>	<code><td colspan="3">内容</td></code>
<code><tr></code>	<code></tr></code>
<code><th colspan="3">見出し</th></code>	<code><tr></code>
<code></tr></code>	<code><td>内容1</td></code>
<code><tr></code>	<code><td>内容2</td></code>
<code><th>見出し1</th></code>	<code><td>内容3</td></code>
<code><th>見出し2</th></code>	<code></tr></code>
<code><th>見出し3</th></code>	<code></table></code>
<code></tr></code>	

水平方向にセルを結合

見出し		
見出し1	見出し2	見出し3
内容		
内容1	内容2	内容3

水平方向にセルを結合した

図2 rowspan属性を使って垂直方向に結合する記述例

<code><table border="1"></code>	<code><td>&nbsp;</td></code>
<code><caption>結合前の表組み</caption></code>	<code><td>内容2</td></code>
<code><tr></code>	<code></tr></code>
<code><th>見出し</th></code>	<code><tr></code>
<code><th>見出し1</th></code>	<code><th>&nbsp;</th></code>
<code><td>内容</td></code>	<code><th>見出し3</th></code>
<code><td>内容1</td></code>	<code><td>&nbsp;</td></code>
<code></tr></code>	<code><td>内容3</td></code>
<code><tr></code>	<code></tr></code>
<code><th>&nbsp;</th></code>	<code></table></code>
<code><th>見出し2</th></code>	

結合前の表組み

見出し	見出し1	内容	内容1
	見出し2		内容2
	見出し3		内容3

結合前の表組み。赤字は結合によって削除する部分。rowspan属性を使つての結合は、複数行にわたってソースの変更がある

<code><table border="1"></code>	<code><th>見出し2</th></code>
<code><caption>垂直方向にセルを結合</caption></code>	<code><td>内容2</td></code>
<code><tr></code>	<code></tr></code>
<code><th rowspan="3">見出し</th></code>	<code><tr></code>
<code><th>見出し1</th></code>	<code><th>見出し3</th></code>
<code><td rowspan="3">内容</td></code>	<code><td>内容3</td></code>
<code><td>内容1</td></code>	<code></tr></code>
<code></tr></code>	<code></table></code>
<code><tr></code>	

垂直方向にセルを結合

	見出し1	内容1
見出し	見出し2	内容2
	見出し3	内容3

垂直方向にセルを結合した

図3 rowspan="0"のブラウザ表示

rowspan="0"でセルを結合			
見出し	見出し1	内容	内容1
見出し2	内容2		
見出し3	内容3		

非対応のブラウザの表示

rowspan="0"でセルを結合			
	見出し1	内容1	
見出し	見出し2	内容2	
	見出し3	内容3	

対応しているブラウザの表示

SUMMARY

まとめ

- 〔1〕 水平方向でのセルの結合はcolspan属性を使用する
- 〔2〕 垂直方向でのセルの結合はrowspan属性を使用する
- 〔3〕 結合を使った複雑な表組みは注意が必要

WHY?: 相互にやり取りするサイトは、なぜ増えている?

Webサイトでの双方向通信の需要が増大している理由のひとつに、スマートフォンやタブレット端末の利用の増加が挙げられます。これらの登場により、インターネットはPCの前だけで行うものではなくなりました。すでにGoogle マップやGoogle Docsなど、HTML5をベースとしたさまざまなサービスがWebを介して提供されており、今後ますます増えていくと考えられます。

POINT_

ただし、これらの記述だけでは、HTMLのバージョンを「5」に宣言したにすぎません。実際にHTML5の機能を引き出して利用するには、JavaScriptとの連携やプログラムの知識が必要となってきます。しかし、これからHTML5を導入しよう、という段階においては、いきなりHTML5の機能をすべて利用する必要はありません。

身近なものでは、Google マップ [図1](#) での、ドラッグ操作による表示エリアの移動や拡大・縮小が挙げられます。

今後、**ユーザーと相互にやり取りができるWebサイトの需要は増大する**とみられます。HTML5でWebサイトを構築するメリットは大きいといえます。

▶ HTML5の記述方法

HTML5は、これまでのHTMLに比べて記述がシンプルになりました。たとえば、XHTML 1.0ではDOCTYPE宣言を [図2](#) のように、<html>タグの属性は2行目のように、meta要素は4行目のように記述していました。

HTML5では、DOCTYPE宣言は「<!DOCTYPE html>」、html要素は「<html lang="ja">」、meta要素は「<meta charset="UTF-8">」と、非常にシンプルなコードで記述できます [図3](#)。これまでのHTMLを単にHTML5にするのであれば、1行目を<!DOCTYPE html>と書き換えるだけで済みます [①](#)。

HTML5の特徴としては、これまでの構造を示す要素がほぼそのまま使えるほか、新しくnav要素やheader要素が追加されたことで、以前よりも構造化されたHTMLを記述することができま。まずは、単純な新要素から利用していくとよいでしょう。

図2 XHTML 1.0での記述例

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja">
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
~ (省略) ~
</head>
<body>
~ (省略) ~
</body>
</html>
```

図3 HTML5での記述例

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="utf-8">
~ (省略) ~
</head>
<body>
~ (省略) ~
</body>
</html>
```

SUMMARY

まとめ

- (1) HTML5はHTMLの5回目の改訂版
- (2) HTML5するには、1行目を「<!DOCTYPE html>」と書き換える
- (3) これまでの構造を示す要素がほぼそのまま使える

02 トップページをつくる

Webサイトを格納するためのファイル、フォルダの準備ができたなら、次はいよいよデザインカンパをもとに、トップページのHTMLとCSSを作成していきましょう。

THEME テーマ

- ▶ Webページを作成する一連の流れ
- ▶ マークアップを行うときのポイント
- ▶ id属性、class属性の使いどころ

▶ テキスト原稿を作成する

前項でHTMLやCSSのファイルセットを準備しました。ここからはトップページの作成に入ります。トップページにあたる「index.html」に、まずはひな形となるHTMLを記述します [図1](#)。通常Webサイトでは、HTMLのバージョンや文字コードの種類などを、すべてのHTMLファイル共通で適用します。あらかじめ決められたルールに則って、ひな形となるHTMLを記述しましょう。

次に、テキスト原稿の準備を行います [▶](#)。Photoshopなどで画面のデザインを準備するのと並行して、入れこむテキスト原稿を用意してください。このとき、見出し・本文・箇条書きなど、文書構造を意識しながら原稿を作成することで、HTMLのコードを場当たり的に書いていくことが少なくなり、文書構造が守られたHTMLを作成することができます。

続いて、index.htmlのbody要素の中にテキスト原稿をペーストします [図2](#)。この段階でWebブラウザに表示しても、単にひと続きのテキストとしか認識していません。これを、タイトルやナビゲーションごとに、適切なタグでマークアップしていきます。

▶ マークアップのポイント

まず、Webサイト全体の見出しとなる「株式会社マジカルリミックス Web制作事業部」は、img要素で書き直して、ロゴ画像に置き換えます。このとき、もとのテキストはalt属性に入れるようにしましょう。「仙台市を中心とし〜」の部分は段落としてp要素でマークアップします。そして、この2つはサイトのヘッダーに値する部分なので、header要素でマークアップします [図3](#) - ①。

▶ CHECK

30 ページ、Lesson2-01 参照。

▶ CHECK

30 ページ、Lesson2-01 参照。

図1 サイト全体のHTMLに共通するテンプレート

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title></title>
<meta name="author" content="">
<meta name="description" content="">
<meta name="keywords" content="">
<link rel="stylesheet" href="">
<!--[if IE]><script src="js/html5shiv.js"></script><![endif]-->
</head>
<body>

</body>
</html>
```

図2 body要素にテキスト原稿をペースト(HTML)

<pre><body> 株式会社マジカルリミックス Web制作事業部 仙台市を中心とし、宮城県全域に対応のホームページ制作。Webデザイン、WordPress、Jimdoを利用したWeb制作。 ・トップページ ・最新情報 ・事業内容 ・会社案内 ・お問い合わせ マジカルリミックスWeb制作事業部は～（省略）～各種制作実績が多数あります。 ■最新情報 2013年6月6日 Jimdo事業部「Jimdoベネフィットサポーター」をオープン 2013年4月15日 「JimdoJapan 4th Anniversary」に参加（出演）しました 2013年2月20日 Webサイト制作初心者向けの本を執筆しました ■事業内容 ・WordPress</pre>	<p>WordPressはもともとブログを～（省略）～ニーズに合うツールです。</p> <p>・Jimdo Jimdoはドイツ生まれの～（省略）～お手伝いをいたします。</p> <p>■会社情報 株式会社マジカルリミックス 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-1-8 第一広瀬ビル2F ※地下鉄広瀬通駅のすぐそばに吉野家があります。そのビルの2Fです。</p> <p>株式会社マジカルリミックス</p> <p>・トップページ ・最新情報 ・事業内容 ・会社案内 ・お問い合わせ</p> <p>宮城県仙台市を中心に対応可能です。遠方でも必要に応じてお伺いたしますので、お気軽にお問い合わせください。</p> <p>© 2007-2013 Magical Remix&Co. </body></p>
---	--

見出しや本文を意識してテキスト原稿を準備する。改行やインデントなどを入れておくとうわかりやすい。そして、マークアップの段階で余計な改行や記号などを削除していく

図3 header要素とnav要素でマークアップ(HTML)

```
<header>
① <h1></h1>
<p>仙台市を中心とし、宮城県全域に対応のホームページ制作。Webデザイン、WordPress、Jimdoを利用したWeb制作。</p>
</header>
<nav>
<ul class="clearfix">
<li><a href="index.html">トップページ</a></li>
<li><a href="news/index.html">最新情報</a></li>
② <li><a href="business/index.html">事業内容</a></li>
<li><a href="company/index.html">会社案内</a></li>
<li><a href="contact/index.html">お問い合わせ</a></li>
</ul>
</nav>
```

設計ルールにより若干の違いはあるものの、ほとんどのケースで同じような要素を選択することになる